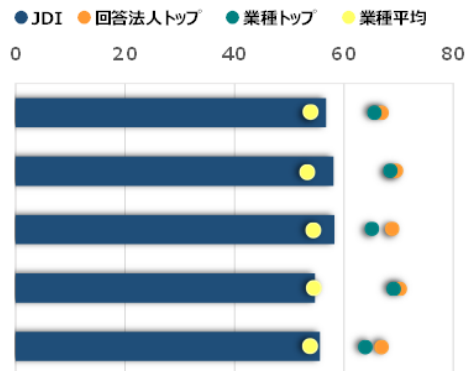


# 健康経営度評価結果

側面（フレームワーク）	重み	JDI	回答法人 全体トップ	業種トップ	業種平均
総合評価	-	56.7	66.9	65.6	53.9
①経営理念・方針	3	58.1	69.5	68.5	53.3
②組織体制	2	58.3	68.8	65.1	54.4
③制度・施策実行	2	54.7	70.2	69.1	54.5
④評価・改善	3	55.6	66.9	63.9	53.8



## 【評価の内訳】

組織体制のフレームワークの偏差値が昨年度より1.7下降したが、他の3側面では昨年度を上回り、全ての側面で業種平均を上回ることができた。今後も健康経営優良法人認定の評価内容を分析し、主要課題を明確にすることで、成果に結びつく施策を実施していく。



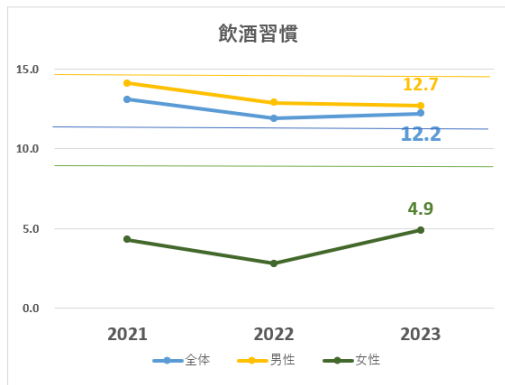
## 健康経営優良法人2024（大規模法人部門）に認定



## 評価の変遷（直近5回の評価結果）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総合順位	751~800	1201~1250	1801~1850	801~850	1051~1100	901~950
総合評価	52.9	50.7	44.5	56.6	55.0	56.7
回答企業数	1800	2328	2523	2869	3169	3523

# 健診結果のデータまとめ

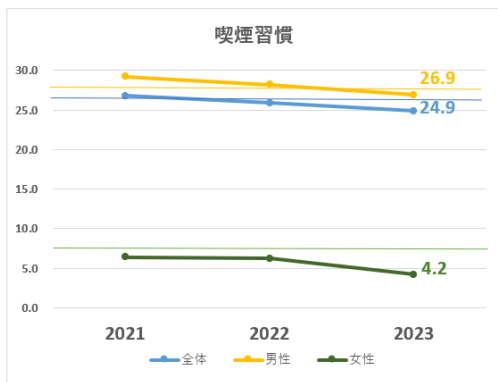


## ■ 飲酒習慣

JDI全体はやや増加傾向、特に女性の飲酒習慣率が増加し、悪化。（男性0.1%増加、女性2.2%増加、JDI全体0.3%増加：悪化）

今後は個別面談を中心に生活習慣のヒアリングを実施し、改善ポイントを見つけ、個々の支援につなげていく。

基準：頻度が時々または毎日かつ、飲酒日1日当たりの飲酒量が清酒換算で2合以上



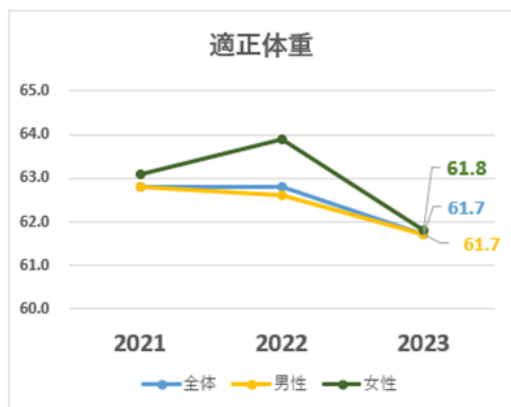
## ■ 喫煙習慣

年々、喫煙者は減少。2025年の目標である喫煙率25%を達成。（男性0.9%減少、女性2%減少、JDI全体1%減少：良好）

禁煙タイムの設定、禁煙支援キャンペーン、喫煙による健康被害の情報提供など、継続的な活動が効果につながっていると思われる。

ポピュレーションアプローチ 2023年度 健康リテラシー実施内容	
禁煙	禁煙支援キャンペーン

基準：喫煙している



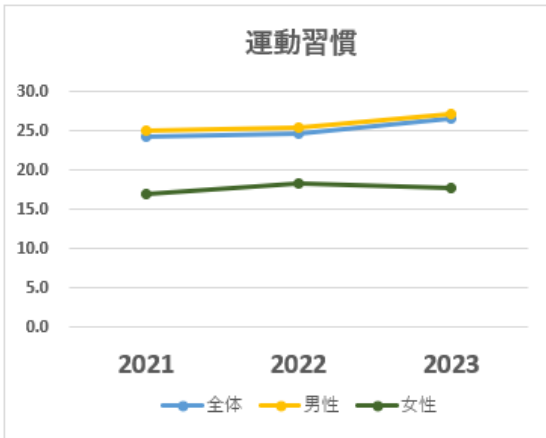
## ■ 適正体重

適正体重の範囲内である人が減少。（男性0.9%、女性2.1%、JDI全体1.1%減少：悪化）

適正体重範囲外の増加の内訳は、肥満が増えただけでなく、痩せも0.5%増加。

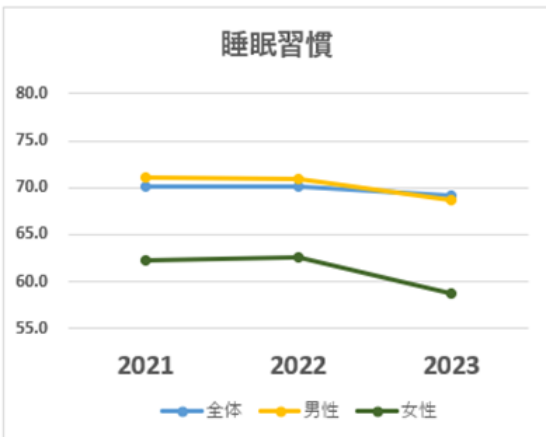
今後は、個々の生活習慣の見直しをポイントに改善点が見つけれられるよう支援を継続していく。

基準：BMI18.5～25未満



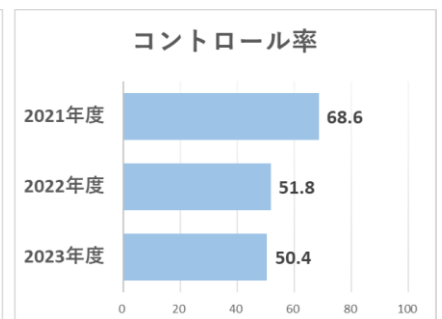
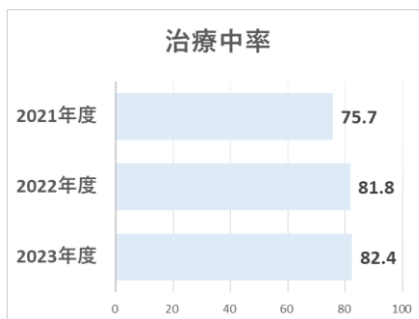
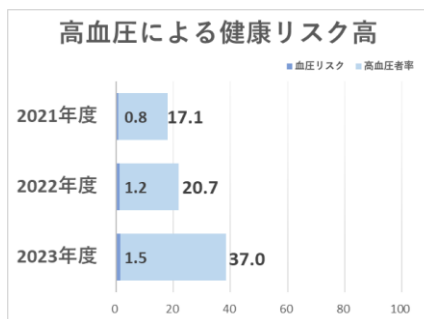
## ■ 運動習慣

全国平均には及んではないが増加傾向にあり、運動習慣の定着が進んでいる。(男性2.3%増加、女性0.2%減少、JDI全体2%増加：良好) 習慣化のコツも合わせて「転倒・腰痛予防体操」「開眼片足だち」を動画配信したことも有効だったと思われる。しかし、女性は減少していることから、減少理由の分析や個別アプローチの工夫が必要。



## ■ 睡眠習慣

女性が悪化。(男性0.7%減少、女性2.5%減少、JDI全体0.9%減少：悪化) 全国平均と比べ、特に女性のデータが悪く、女性の生活パターンを捉えた具体策の提案や個別支援を要点とし改善を図っていく。



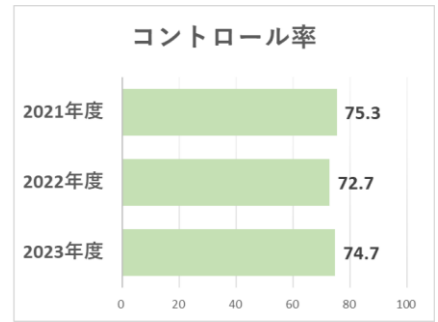
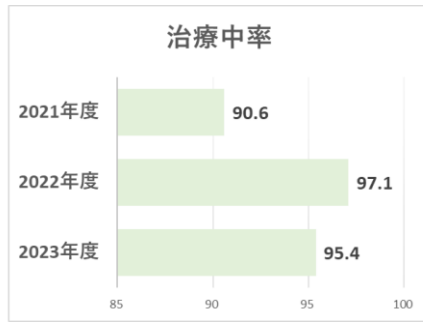
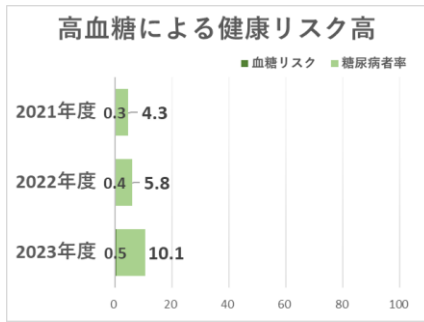
## ■ 高血圧者状況

高血圧者率が年々増加し、悪化傾向。

原因の一つに、再雇用者を含め社員全体の年齢が高くなっていることも考えられる。

治療中率は増加しているため、コントロール不良者が増えている可能性が考えられる。

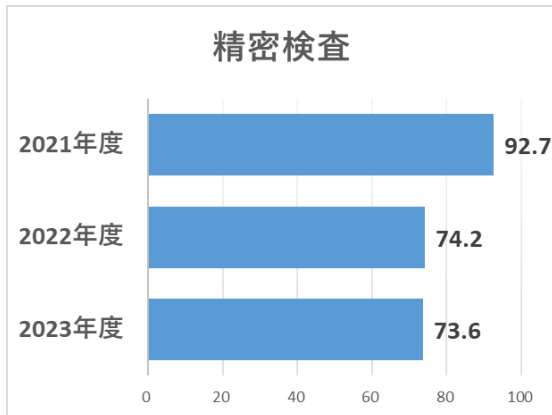
治療中であっても、内服通院の確認や生活習慣改善の支援を進める必要がある。



## ■ 糖尿病患者状況

糖尿病患者率が年々増加し、悪化傾向。

糖尿病患者は増えているものの治療率、コントロール率は高いため、治療状況は良好な人が概ねだと思われる。しかし、治療率は微減しているため、個別支援においては、受診勧奨を検討しながら支援を進めることが重要である。

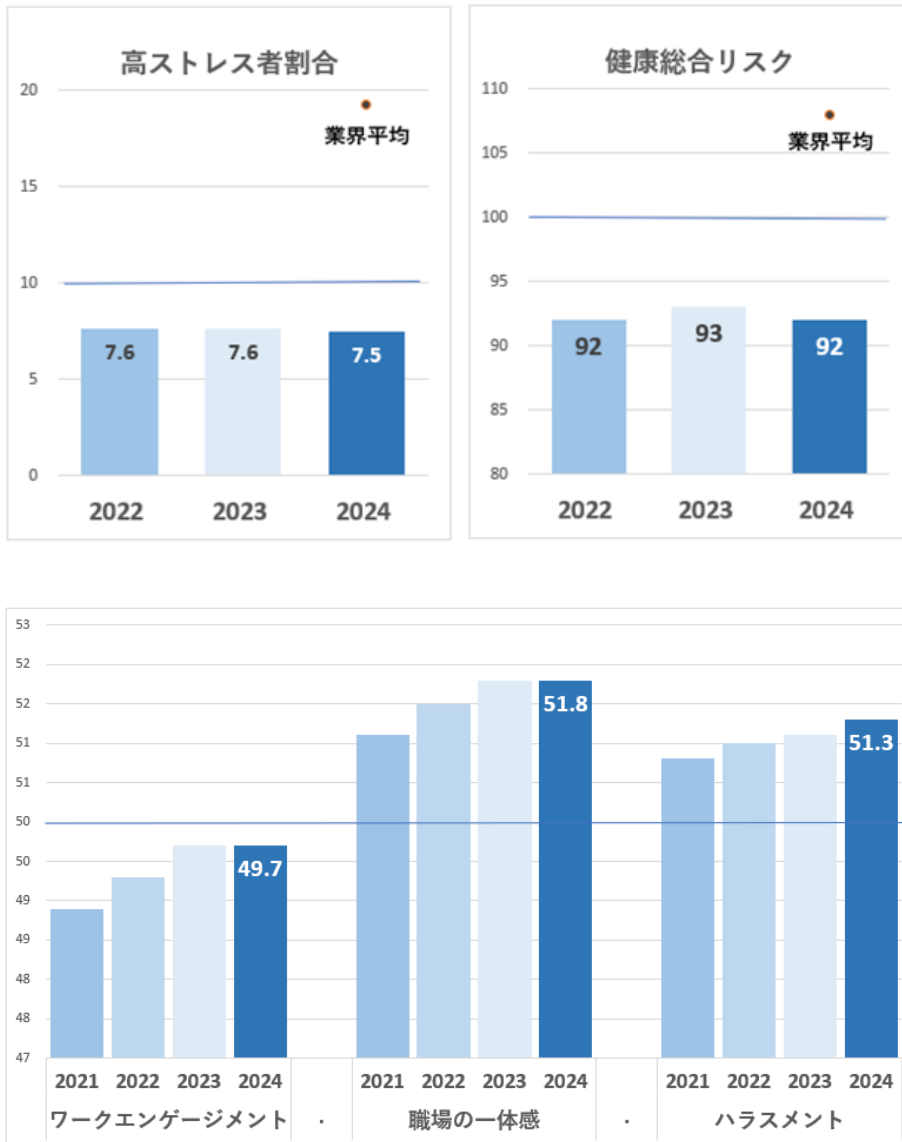


## ■ 精密検査受診率

健康診断受診率は100%であったが、精密検査受診率は低下傾向。精密検査の内容は、血圧や心電図異常など様々であるが、高血圧者・糖尿病患者ともにハイリスク者が増加する一方で、コントロール良好な人や治療中の人が増加している。その要因の一つに、精密検査受診率の低下が考えられる。

受診は本人意思によるところが大きいですが、今後は受診勧奨を強化し、ハイリスク者の低下につなげていく。

# ストレスチェック



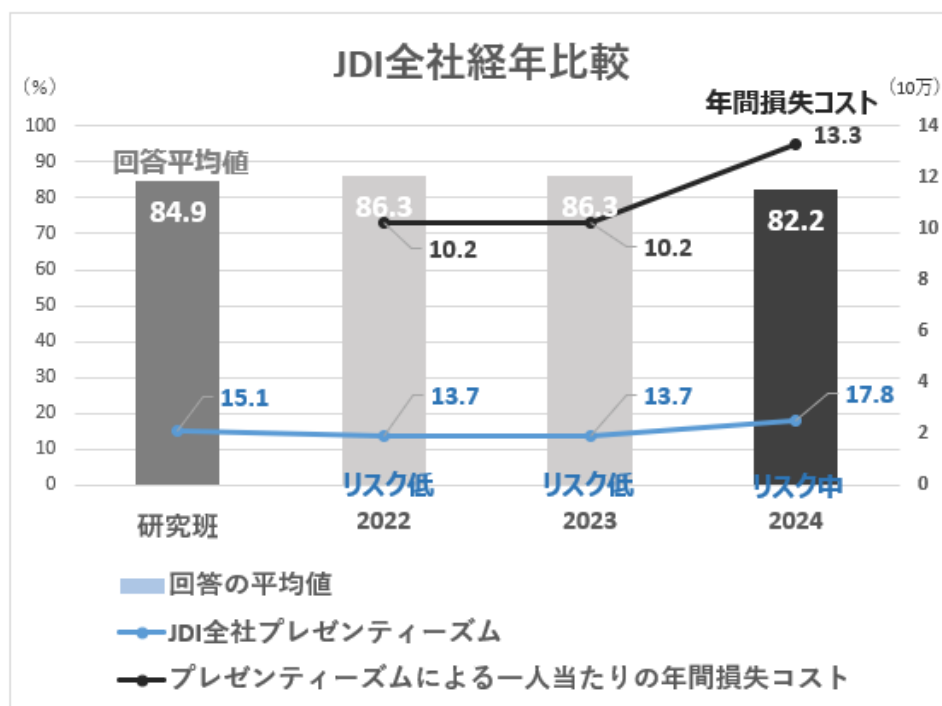
## ■ストレスチェック

高ストレス者・総合健康リスクともに減少。

高ストレス者割合、総合健康リスクも業界平均よりはるかに低く、厚労省が公表している実施マニュアルの判定基準の高ストレス者割合10%以下と総合健康リスク100のどちらも大きく下回っており組織全体としては良好な状況と言える。

健康いきいきアウトカムの3指標も業界平均より良い状態にあるが、職場ごとの集団分析では、一概に全て良好とはいえない部署もあるため、一つ一つのデータを判読しながら職場の課題に合わせた支援をしていく必要がある。

# プレゼンティーズム



## ■ JDI プレゼンティーズム

昨年度比で悪化。プレゼンティーズムによる従業員一人当たりの年間損失コストは2023年度102万円、2024年度は133万円と31万円増となり、従業員の業務遂行能力や生産性が低下。健康リスクも低から中程度と悪化している。

心身の健康状態や生活習慣等の健康リスクを多く抱える社員は、健康リスクが少ない社員と比較して、SPQ presenteeismが約3倍大きいことが確認されていることから、プレゼンティーズムの改善対策が必要。

- ①運動器・感覚器障害の予防・改善
- ②メンタルヘルス不調の予防・改善
- ③心身症（ストレス性内科疾患）の予防・改善

が有効とされているため、次年度の健康リテラシーには、これらを含め、より実践につながる健康増進活動を実施していく。